

生体構造機能・病態解析学特講

[講義] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 小島 悟 skojima@hoku-iryo-u.ac.jp、桜庭 聡

【概要】

運動学的視点から身体運動・動作の特徴とその仕組みを解明するための科学的方法論について学習する。特に、リハビリテーション科学領域で対象となる様々な障害による異常運動・動作や、加齢に伴う身体運動・動作の変化に関して、その発生機序を運動学的視点から追究していく手法について検討する。本特講では、三次元動作解析装置をはじめとする身体運動・動作の様相を定量化する計測機器の計測手法についても触れながら授業を展開していく。

【学修目標】

1. 身体運動・動作を運動学的視点から解析するために必要な基礎知識を説明できる。
2. 身体運動・動作を運動学的に解析するための手法について説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|------|----------------------------|------------------------------------------|-----------|
| 1・2 | 身体運動・動作解析概論 | 運動学的視点で身体運動・動作の特徴とその仕組みを捉えるとは | 小島 悟 桜庭 聡 |
| 3～6 | 身体運動・動作解析手法 | 様々な身体運動・動作解析手法について | 小島 悟 桜庭 聡 |
| 7～15 | リハビリテーション科学領域における身体運動・動作解析 | 様々な障害による異常運動・動作、加齢に伴う身体運動・動作の変化をどう捉えていくか | 小島 悟 桜庭 聡 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート100%

【教科書】

使用しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【学修の準備】

予め指定された文献を読んで理解しておくこと（80分）。

授業時に紹介された文献を読んで学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域において、学際的視点を活かしながら、先進的かつ独創的な研究を自律的に遂行するための高度な学識と研究能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

小島 悟（理学療法士）、桜庭 聡（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

実務経験を活かし、リハビリテーション科学領域で用いられる科学的運動・動作解析方法について講義する。